

調査結果のまとめ

1 まちづくりについて

(1) 市の将来像

将来の相模原市はどのようなまちであってほしいかたずねたところ、「社会福祉が進み、健康で安全に暮らせるまち」(48.8%)が5割近くで最も高く、次いで、「都市としてのいろいろな生活施設が整ったまち」(15.7%)、「緑と青空が広がる自然環境に恵まれたまち」(10.8%)と続いている。

(2) 市に望む優先施策

どのような施策を優先してほしいかたずねたところ、「高齢者対策」(41.3%)が4割を超えて最も高く、次いで、「保健医療対策」(32.3%)、「防犯・風紀対策」(22.1%)、「雇用・勤労福祉対策」(20.2%)、「公共交通機関の整備」(18.5%)と続いている。

(3) 地域活動への参加状況

地域の活動にどの程度参加しているかたずねたところ、「参加している」(12.5%)と「ときどき参加している」(20.2%)の2つを合わせた参加している(計) (32.7%)は3割を超えている。一方、「あまり参加していない」(28.5%)と「全く参加していない」(36.9%)の2つを合わせた参加していない(計) (65.4%)は6割半ばとなっている。

(3-1) 参加している地域活動の内容

地域の活動に「参加している」または「ときどき参加している」と答えた方に、主にどのような活動に参加しているかたずねたところ、「自治会活動(地域の盆踊り・運動会などを含む)」(80.2%)が8割で最も高く、次いで、「子どもの健全育成を図る活動」(15.0%)、「学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動」(13.7%)、「消防・防災活動」(13.1%)、「地域安全活動」(12.9%)と続いている。

(3-2) 地域活動に参加して感じたこと

地域の活動に「参加している」または「ときどき参加している」と答えた方に、活動に参加してどのように感じたかたずねたところ、「地域の人々と交流し、顔が見える関係が作れた」(64.5%)が6割半ばで最も高く、次いで、「地域への愛着や親しみが増した」(32.0%)、「楽しく充実した時間を過ごせた」(30.6%)、「自分自身の知識が広がった」(30.1%)、「地域のために役立つことができ、嬉しかった」(26.2%)と続いている。

(3-3) 地域活動に参加していない理由

地域の活動に「あまり参加していない」または「全く参加していない」と答えた方に、参加していない理由をたずねたところ、「参加してみたいが、暇がないから」(24.4%)が2割半ばで最も高く、次いで、「参加してみたいが、機会がないから」(20.3%)、「関心がないから」(19.8%)、「健康や体力に自信がないから」(19.2%)、「めんどうだし、わずらわしいから」(16.8%)と続いている。

2 広報紙について

(1) 市の情報を得る手段

相模原市の情報を日ごろ何から得ているかたずねたところ、「広報さがみはら(紙面)」(54.1%)が5割半ばで最も高く、次いで、「自治会・公民館だより」(26.6%)、「インターネット(市ホームページ・市公式LINEなど)」(19.0%)、「家族・友人・知人・近所の人」(16.9%)、「新聞」(15.6%)と続いている。

(1-1) インターネットを利用する手段

相模原市の情報を「広報さがみはら(ホームページ)」、「マイ広報さがみはら(Web)」、「インターネット」から得ていると答えた方に、インターネットを利用する手段をたずねたところ、「スマートフォン」(74.1%)が7割半ばで最も高く、次いで、「パソコン」(46.8%)、「タブレット端末」(12.7%)、「携帯電話」(7.7%)と続いている。

(2) 「広報さがみはら」の閲覧状況

「広報さがみはら」をどの程度お読みになっているかたずねたところ、「よく読んでいる」(16.2%)と「ある程度読んでいる」(34.7%)の2つを合わせた読んでいる(計)(50.9%)は約5割となっている。一方、「あまり読んでいない」(23.1%)と「全く読んでいない」(24.1%)の2つを合わせた読んでいない(計)(47.2%)は5割近くとなっている。

(2-1) 「広報さがみはら」の情報量

「広報さがみはら」を「よく読んでいる」または「ある程度読んでいる」と答えた方に、情報量についてたずねたところ、「少ない」(5.1%)と「やや少ない」(10.3%)の2つを合わせた少ない(計)(15.3%)は1割半ばとなっている。一方、「やや多い」(1.9%)と「多すぎる」(0.4%)の2つを合わせた多い(計)(2.2%)は1割未満となっている。また、「ちょうどよい」(68.9%)は7割近くとなっている。

(2-2) 「広報さがみはら」の入手方法

「広報さがみはら」を「よく読んでいる」または「ある程度読んでいる」と答えた方に、「広報さがみはら」をどのように入手しているかたずねたところ、「新聞折込」(79.6%)が8割で最も高く、次いで、「公共施設」(12.3%)、「市ホームページ、アプリなど」(5.8%)、「駅」(5.1%)と続いている。

(2-3) 「広報さがみはら」を読んでいる理由

「広報さがみはら」を「あまり読んでいない」または「全く読んでいない」と答えた方に、読んでいない理由をたずねたところ、「『広報さがみはら』を入手していない」(34.6%)が3割半ばで最も高く、次いで、「読まなくても支障がない」(29.8%)、「『広報さがみはら』を知らなかった」(15.5%)、「忙しくて読む暇がない」(13.8%)、「興味がない」(11.7%)と続いている。

(2-4)「広報さがみはら」を入手していない理由

「『広報さがみはら』を入手していない」と答えた方に、入手していない理由をたずねたところ、「新聞を取っていない」(71.8%)が7割を超えて最も高く、次いで、「どこで配布しているかわからない」(41.3%)、「相模原市の情報は、パソコンやスマートフォンで入手している」(22.8%)、「興味がない」(8.9%)、「相模原市の情報は、その他の手段で入手している」(2.3%)と続いている。

(3)「広報さがみはら」の配布方法

「広報さがみはら」の配布方法についてたずねたところ、「発行回数などは現在のまま、インターネットを使った情報発信(スマホアプリなど)の充実や、広報さがみはらの置き場所(スーパーなど)の拡充などを行う」(42.1%)が4割を超えて最も高く、次いで、「広報さがみはらのニーズ調査をして、必要な人に配布すればよい」(16.2%)、「現在の発行回数や情報量のまま、予算を増やしてでも全戸ポスティングする」(10.3%)、「発行回数を減らし、配布方法は現在のままでよい」(8.9%)、「発行回数や情報量を減らしてでも、全戸ポスティングする」(8.8%)と続いている。

エスディー・ジーズ

3 SDGsについて

(1) SDGsのロゴやアイコンの認知状況

SDGsのロゴやアイコンを見たことがあるかたずねたところ、「見たことがある」(24.5%)が2割半ば、「見たことがない」(65.4%)は6割半ばとなっている。

(2) SDGsの認知度

SDGsを知っているかたずねたところ、「知っている」(16.6%)が2割近く、「聞いたことはあるが内容については知らない」(22.6%)は2割を超えている。一方、「全く知らない」(58.1%)は6割近くとなっている。

(3) SDGsの達成に向けて実践していること

SDGsの達成に向けて実践していることをたずねたところ、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」(70.3%)が7割で最も高く、次いで、「食品ロス(食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄)の削減を意識している」(56.5%)、「温室効果ガスの排出抑制を意識している(節電や公共交通機関の利用など)」(24.6%)、「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」(12.8%)と続いている。

4 マイナンバーカードについて

(1) マイナンバーカードの取得状況

マイナンバーカードを取得しているかたずねたところ、「取得している」(30.7%)が約3割、「申請中」(3.3%)は1割未満、「今後取得する予定」(25.9%)は2割半ばとなっている。一方、「取得する予定はない」(38.8%)は4割近くとなっている。

(1-1) マイナンバーカードを取得した(する)理由

マイナンバーカードを「取得している」、「申請中」、「今後取得する予定」と答えた方に、取得した(する)理由をたずねたところ、「身分証明書として使えるから」(54.5%)が5割半ばで最も高く、次いで、「将来利用できる場面が増えると思ったから」(45.4%)、「住民票などがコンビニで取得できるから」(31.5%)、「確定申告などの行政手続をインターネットで行えるから」(18.0%)、「健康保険証として使えるから」(11.8%)と続いている。

(1-2) マイナンバーカードを取得していない理由

マイナンバーカードを「取得する予定はない」と答えた方に、取得していない理由をたずねたところ、「身分証明書になるものは他にあるから」(56.5%)が6割近くで最も高く、次いで、「取得する必要性を感じられないから」(52.6%)、「個人情報の漏えいが心配だから」(46.3%)、「紛失や盗難が心配だから」(35.6%)、「申請手続が面倒だから」(24.5%)と続いている。

(1-3) マイナンバーカードを取得しようと思う機会

マイナンバーカードを取得していない理由で「申請手続が面倒だから」と答えた方に、どのような機会があればマイナンバーカードを取得しようと思うかたずねたところ、「身近な場所(まちづくりセンター、公民館等)で申請できれば」(47.7%)が5割近くで最も高く、次いで、「申請のお手伝いがあれば(写真撮影～申請まで)」(34.4%)、「申請後、カードが郵送されるのであれば」(32.5%)と続いている。

5 防災情報の発信について

(1) 令和元年東日本台風(台風第19号)で発令された避難情報の認知方法

令和元年東日本台風(台風第19号)で発令された避難情報をどのような方法で知ったかたずねたところ、「テレビ」(67.5%)が7割近くで最も高く、次いで、「携帯電話の緊急速報メール(エリアメール)」(57.0%)、「ひばり放送(テレホンサービスやテレビ神奈川データ放送含む)」(34.1%)、「市からの防災メール」(24.2%)、「インターネットのニュースサイトや気象庁などのホームページ」(18.6%)と続いている。

(2) ひばり放送の屋外スピーカーの必要性

ひばり放送の屋外スピーカーを必要だと思うかたずねたところ、「必要」(59.9%)が6割、「必要ない」(13.1%)は1割を超え、「どちらでもいい」(21.3%)は2割を超えている。

(2-1) ひばり放送の屋外スピーカーを必要だと思う理由

ひばり放送の屋外スピーカーを「必要」と答えた方に、必要だと思う理由をたずねたところ、「正午と夕方のチャイムを聞いているから」(44.4%)が4割半ばで最も高く、次いで、「音声で聞きたいから」(28.6%)、「停電になったときに、ひばり放送の内容を確認できる方法を持っていないため」(24.3%)、「屋外でひばり放送の内容を確認できる方法を持っていないため」(15.9%)、「ひばり放送の内容の確認方法(防災メール、テレビ神奈川データ放送、電話)が分からないため」(14.4%)と続いている。

(2 - 2) ひばり放送の屋外スピーカーを必要ないと思う理由

ひばり放送の屋外スピーカーを「必要ない」と答えた方に、必要ないと思う理由をたずねたところ、「何を言っているのか聞き取れないから」(92.3%)が9割を超えて最も高く、次いで、「他の手段でひばり放送の内容を確認できるから」(18.3%)、「うるさいから」(9.1%)と続いている。

(3) ひばり放送の屋外スピーカーから放送している音声について感じる事

ひばり放送の屋外スピーカーから放送している音声についてどのように感じているかたずねたところ、「いまの女性の音声のままでよい」(44.1%)が4割半ばで最も高く、次いで、「緊急情報(避難情報等)の放送時はチャイム音を変更してほしい」(24.2%)、「緊急情報(避難情報等)の放送時は音声を変更してほしい」(15.1%)、「単語ごとの間隔をあけて放送してほしい」(8.9%)と続いている。

6 スポーツの観戦や支援について

(1) スポーツの試合の観戦状況

この1年のうちに、スポーツの試合を直接会場で観戦したかたずねたところ、観戦した人の中では、「市外の会場でプロ等(実業団、社会人等を含む)の試合を観戦した」(9.2%)が約1割で最も高く、次いで、「市内の会場で小学生、中学生の試合を観戦した」(6.0%)と続いている。また、「観戦しなかったが機会がなかった」(34.6%)は3割半ば、「関心がない」(37.9%)は4割近くとなっている。

(2) 「相模原市ホームタウンチーム」に対する関心

「相模原市ホームタウンチーム」にどの程度関心があるかを、4チームに分けて聞いたところ、「チームを応援しているが、観戦に行ったことがない」は、SC相模原(11.3%)が1割を超えて最も高く、「名前を知っている程度」でも、SC相模原(52.0%)が5割を超えて最も高くなっている。一方、「知らない」は、ノジマ相模原ライズ(49.4%)、三菱重工相模原ダイナボアーズ(45.6%)、ノジマステラ神奈川相模原(42.6%)がいずれも4割台と高くなっている。

7 建物と地震について

(1) 住宅についての地震への不安

今お住まいの住宅について、地震に対しての不安があるかたずねたところ、「不安である」(22.7%)と「やや不安である」(25.4%)の2つを合わせた不安である(計) (48.1%)は5割近くとなっている。一方、「あまり不安はない」(26.8%)と「不安はない」(9.9%)の2つを合わせた不安はない(計) (36.8%)は4割近くとなっている。

(2) 昭和56年5月31日以前に建築された建物の耐震性に関する認知度

昭和56年5月31日以前に建築された建物は、耐震性に課題があることを知っているかたずねたところ、「よく知っている」(23.6%)が2割を超え、「聞いたことはある」(58.2%)は6割近くとなっている。一方、「まったく聞いたことがない」(16.6%)は2割近くとなっている。

(3) 「耐震診断」の認知度

「耐震診断」を知っているかたずねたところ、「よく知っている」(20.3%)が2割、「聞いたことはある」(66.8%)は7割近くとなっている。一方、「まったく聞いたことがない」(11.1%)は1割を超えている。

(4) 市による住宅に対する助成制度の認知度

相模原市には、住宅に対する耐震診断や耐震改修工事、危険ブロック塀等の助成制度があるのを知っているかたずねたところ、「知っている」(23.0%)が2割を超えている。一方、「知らない」(75.6%)は7割半ばとなっている。

(4-1) 市による住宅に対する助成制度を知った手段

助成制度を「知っている」と答えた方に、知った手段をたずねたところ、「広報さがみはら」(63.7%)が6割を超えて最も高く、次いで、「地域情報誌(自治会回覧板)」(19.1%)、「口コミ・知人からの紹介」(15.6%)、「市ホームページ」(10.7%)と続いている。

8 自転車の安全利用について

(1) 自転車保険の加入状況

自転車運転中の加害事故の被害者に対する賠償に備えた保険に加入しているかたずねたところ、「加入している」(39.4%)は約4割となっている。一方、「自転車を持っているが、加入していない」(16.7%)が2割近く、「自転車を持っているが、加入しているか分からない」(6.2%)は1割未満、「自転車を持っていない」(35.6%)は3割半ばとなっている。

また、「自転車を持っている方」(「自転車を持っていない」+ 無回答者を除く)でみると、「加入している」(63.2%)は6割を超えている。一方、「加入していない」(26.8%)が3割近く、「加入しているか分からない」(10.0%)は1割となっている。

(1-1) 加入している保険の種類

自転車保険に「加入している」と答えた方に、加入している保険をたずねたところ、「個人賠償(特約も含む)」(78.2%)が8割近く、「TSマーク付帯保険」(19.7%)は2割となっている。

(1-2) 加入していない理由

自転車保険に「自転車を持っているが、加入していない」と答えた方に、加入していない理由をたずねたところ、「自転車にほとんど乗らないから」(47.5%)が5割近くで最も高く、次いで、「加入手続きの方法が分からないから」(23.8%)、「費用が掛かるから」(18.1%)、「事故の加害者になることはほとんどないと思うから」(12.5%)と続いている。

(2) 自転車事故の賠償に備える特約を付帯できる損害保険の認知度

自動車保険や火災保険に、自転車事故を起こした場合の特約保険を付帯できるものがあるのを知っているかたずねたところ、「知っている」(52.4%)が5割を超え、「知らない」(40.1%)は4割となっている。

(3) 自転車に乗るときのヘルメットの着用状況

自転車に乗るときにヘルメットを着用しているかたずねたところ、「着用している」(1.9%)は1割未満となっており、「着用していない」(52.6%)が5割を超えている。「自転車には乗らない」(39.4%)は約4割となっている。

(3-1) ヘルメットを着用していない理由

自転車に乗るときにヘルメットを「着用していない」と答えた方に、着用していない理由をたずねたところ、「周りの人も着用していないから」(49.2%)が約5割で最も高く、次いで、「暑かったり、重かったりするから」(44.7%)、「着用後に髪型を整えるのが面倒だから」(20.5%)、「着用したいヘルメットがないから」(17.7%)、「事故に遭うことはほとんどないと思うから」(15.3%)と続いている。

(4) 13歳未満の子どもに対するヘルメットの着用状況

13歳未満のお子さんにヘルメットを着用させているかたずねたところ、「着用させている」(9.2%)は約1割、「着用させていない」(6.0%)と「自転車に乗らせていない」(3.6%)はともに1割未満となっている。

また、「13歳未満の子どもがいて、自転車に乗らせている方」(「自転車に乗らせていない」+「13歳未満の子どもはいない」+無回答者を除く)でみると、「着用させている」(60.3%)が6割、「着用させていない」(39.7%)は4割となっている。

(4-1) ヘルメットを着用させていない理由

13歳未満のお子さんにヘルメットを「着用させていない」と答えた方に、着用させていない理由をたずねたところ、「周りの人も着用させていないから」(45.8%)が4割半ばで最も高く、次いで、「暑かったり、重かったりして、子どもに負担がかかるから」(32.3%)、「着用させたいヘルメットがないから」(12.5%)、「費用が掛かるから」(10.4%)、「事故に遭うことはほとんどないと思うから」(8.3%)と続いている。

(5) 保護者が幼児・児童にヘルメットを着用させる条例の努力義務の認知度

「相模原市安全に安心して自転車を利用しようよ条例」で、幼児や児童を自転車に乗車させるときは、保護者はヘルメットを着用させるよう努めなければならないことを知っているかたずねたところ、「知っている」(42.0%)が4割を超え、「知らない」(51.5%)は5割を超えている。